

巻頭言

申年は大学飛躍の年！

歯学部長 松口徹也

平素より鹿児島大学歯学部のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。このたび鹿児島大学歯学部紀要第36巻を皆様にお届けできることを、歯学部長として喜ばしく思います。

今年2016年は申の年になります。ある新年会のスピーチで、「羊から申への知能指数の向上で今年は知的な年になると思われ、大学にとってきっと良い年になるはずです。」という戯れ言を述べさせていただきました。しかし現実には、現在の国立大学をとりまく状況は決して甘いものではありません。国からの運営交付金の減額、人件費の増大、少子化の影響などで、全国の国立大学の経営は苦しい状況にあり、各局に研究費や人件費の削減が要求されるなど、強い逆風に曝されているといえます。

昨年は、厳しい予算状況の元、私共歯学部では、英語授業や学生の研究室配属を含めた大胆な学部生授業カリキュラムの変更や、北米・東南アジア等の歯科大学3校との学部間学術協定の新規締結、学生離島実習の与論・奄美・種子島3島への拡充など、多くの改革を実現することができました。2016年もこの流れを絶やさないよう、学部にとって必要な改革を積極的に押し進めていくつもりです。状況が厳しいからといって萎縮するのではなく、むしろ、厳しい環境を変革のチャンスと考え、よりよい組織を目指した構造改革を押し進めていくべきだと考えます。

巻頭言として、今年の学部の施策として重視しているものから3つを選んでお話しします。1つめは大規模災害への対応です。鹿児島は、懸念される桜島大噴火や南海トラフ地震による大きな被害を受ける可能性があります。鹿児島大学歯学部は南九州唯一の歯科大学として、有事の際の個人識別や歯科診療に積極的に貢献する義務があると考えます。その体制作りのために、昨年「大規模災害対策準備委員会」を学部内に立ち上げました。この委員会を中心として、現場での対

応、教員・学生教育を絡めた有機的な対災害体制を、スピード感をもって整備していく予定です。

2つめは学部における男女参画機会の均等化です。日本では1999年に制定された男女共同参画社会基本法の下で様々な提言がなされていますが、2012年の世界経済フォーラムの男女格差報告では、日本は世界135ヶ国中101位と、途上国以下の評価に留まっています。鹿大歯学部では、2015年に2名の女性准教授が誕生するなど、女性教員の積極的な採用を心がけていますが、まだ十分とは言えない状況です。最近の歯学部入学者における女性の増加が目立っており、鹿児島大学歯学部の昨年度の入学者における女性比率は約60%もあります。優秀な卒業生の雇用確保という点でも、男女参画機会の均等化は歯学部の喫緊の課題だと考えています。

3つめの重視点は、学部生の学習環境の改善です。昨年末から、歯学部講義棟内の学生控え室の改善に取り組んでおり、周囲の環境や机椅子の整備を行うことで、学年を越えて学生が学び合うことのできるスペースへと変化しつつあります。一方、前述した女性学生の急増に学部の施設整備が追いついていない部分もあり、例えば女子学生用のロッカーの不足など対応を要する点も認められます。施設整備は予算の問題などで直ぐには対応できない点も多々あるのですが、大学本部の理解も求めながら、早期の改善へ向けて努力をしていくつもりです。

最後に私事になりますが、今年は私の学部長としての任期が満了する年になり、4月以降は新学部長の元で更なる学部の発展を目指すことになります。今までのご支援に感謝するとともに、今後とも、より良い学部への成長のために関係者の皆様のご支援とご協力を賜りますよう、宜しく申し上げます。